

3. 履修登録

博士課程3年間で履修する科目は、1年次に一括して登録します。

指導教員と相談の上、専攻分野の論文作成等に必要科目の履修計画にそって、指定の期日までに履修登録を行ってください。

なお、履修登録には指導教員の承認（署名・押印）が必要です。

提出時期は以下の通りです。

- ◎ 1年次：4月下旬（日時の詳細は別途指定、提出先：リハビリテーション科学課）
- ◎ 2年時以後の学生で、当初の履修登録から変更が生じる学生は、履修登録変更届を提出のこと。

4. 中間報告会，学位論文進捗報告会

中間報告会

研究計画，研究倫理，研究の進捗状況を確認するとともに，指導教員以外の教員から論文作成に向けた助言・指導を受けるため，1年次と2年次に中間報告会を実施します。各年次1回以上中間報告をしてください。中間報告会は前期と後期に各1回，年間2回（9月，3月）開催します。報告を希望する学生は，申込期日（7月，1月：報告会の概ね2カ月前：詳細は別途案内）までに「中間報告会申込用紙（別途指定様式）」を記入の上，リハビリテーション科学課へ提出してください。なお，2回目の中間報告会においては「中間報告会申込用紙（別途指定様式）」と倫理審査を申請した研究に関しては、「研究倫理に対する確認書」の提出が必要です。

〔開催時期〕 各学年9月，3月

〔場 所〕 北海道医療大学当別キャンパスまたは札幌サテライトキャンパス

〔参加者〕 博士課程学生および本学リハビリテーション科学研究科教員は原則として参加する。本報告会は，公開方式にて開催とする。

〔内 容〕 研究計画の報告とその進捗状況などについて報告し，意見交換を行う。当日配布資料がある場合は各自で用意すること。

*実施の詳細については，別途お知らせします。

学位論文進捗報告会

博士課程の学生で，博士論文の提出を予定している学生は，修了予定の半期前まで（3月修了の場合は前年9月末まで）に学位論文進捗報告会を実施し，審査を受けなければなりません。報告を希望する学生は，期日（報告会の概ね2カ月前：詳細な別途案内）までに「学位論文進捗報告会申込用紙（別途指定）」、「学位論文要旨」を記入の上，リハビリテーション科学課へ提出してください。

〔開催時期〕 2025年9月（9月修了の場合は2026年3月）

〔場 所〕 北海道医療大学当別キャンパスまたは札幌サテライトキャンパス

〔参加者〕 博士課程学生および本学リハビリテーション科学研究科教員は原則として参加する。本報告会は，公開方式にて開催とする。

[内 容] 提出予定の学位論文の内容を報告し、意見交換を行う。当日配布資料がある場合は各自で用意すること。

[提出書類] 学位論文要旨、副論文（投稿中も含む）

※副論文は「6. 博士学位論文審査申請手続き」の4) 副論文に準じる

*実施の詳細については、別途お知らせします。

5. 博士学位論文審査申請手続き

指導教員の承認、および副論文が必要になります。博士学位論文審査申請は、次の要領で行います。

1) 配付書類

- (1) 学位論文審査願用紙
- (2) 論文目録用紙
- (3) 履歴書用紙
- (4) 博士学位申請手続き等日程

2) 書類作成

「学位論文審査願」、「論文目録」、「履歴書」を新たに作成する場合は、所定の様式に従ってください。（様式の変更は認めません）

提出にあたって、「学位論文審査願」の「指導教員承認欄」に指導教員の署名・押印を必ず受けてください。上記の署名・押印がないものは受理できません。

この場合、学位申請が認められませんので、留意してください。

3) 提出書類

- | | |
|-----------------|-------------|
| (1) 学位論文審査願 | 1 通 |
| (2) 学位論文 | 5 部 * |
| (3) 学位論文要旨 | 25 部 |
| (4) 論文目録 | 5 部 |
| (5) 副論文 | 各 5 部 |
| (6) (5) の共著者承諾書 | 各 1 通 |
| (7) 倫理審査承諾書の写し | 各 1 通 |
| (8) 履歴書 | 1 通 |
| (9) 論文審査料 | : 50, 000 円 |

*学位論文の提出部数は、正本（原本）1部、審査用（審査委員／主査1、副査3名）4部、計5部です。ただし、副査の人数が増加した場合は、人数に応じて増部となります。

4) 副論文

博士学位の申請には、下記の条件による副論文が必要になります。

【学位規程施行細則第4条第2項】

- (1) 学位論文の基礎となる副論文は、審査委員会のある学術雑誌に印刷公表された論文、または掲載許可の証明がある論文とする。これらの副論文は、筆頭者として1編以上あることが必要である。(国際雑誌の場合は1編以上、国内雑誌の場合は2編以上)
- (2) 共著である副論文は、学位申請者以外の共著者の承諾を添付しなければならない。
- (3) 副論文については、以下の条件を満たすこととする。
 - ・指導教員と確認した内容であること。
 - ・中間報告会で報告されている内容であり、学位論文進捗報告会に提出されているものであること。

5) 提出期限および提出先

- (1) 提出期限：2025年11月末(9月修了の場合は2026年5月)

※日時の詳細は別途指定。

- (2) 提出場所：リハビリテーション科学課

6) 学位論文の一部修正

提出後の学位論文の一部修正は、審査委員(主査・副査)の指導に基づき以下の通りの取り扱いとなります。なお、論文提出者が任意に論文の修正・差し替えを行えるものではありませんので、留意してください。

- (1) 修正前後の対照表(正誤表形式)を作成し、リハビリテーション科学課に提出。
 - ・提出期限：2026年1月末(9月修了の場合は2026年7月末)(日時の詳細は審査委員より指定)
 - ・提出部数：対照表(正誤表形式) 5部
- (2) 本文・資料等、全ての修正を完了した最終版の論文一式をリハビリテーション科学課に提出。
 - ・提出期限：2025年2月中旬(9月修了の場合は2025年8月中旬)(日時の詳細は別途指定)
 - ・提出部数：5部

※当初提出の論文(正本/原本)を一括して修正版(本文・資料などのみ)に差し替えます。<表紙ファイルの提出不要>

※そのほか、修正の詳細は、審査委員(主査・副査)の指導による。

7) 公開討論会

博士学位論文審査申請者を発表者として、博士論文公開討論会を開催します。公開討論会の実施要領等詳細については、別途通知します。公開討論会において当日配布資料がある場合には各自用意すること。

8) 口頭試問

口頭試問を行います。口頭試問の日程・場所等については、審査委員より別途指定されます。

9) 学位論文審査結果

学位授与認定者については、2026年2月下旬（9月修了の場合は2026年8月下旬）に本人宛文書にて通知します。

6. 博士学位論文の作成様式

博士学位論文の作成様式については、次の通り取り扱うこととする。

1) 論文要旨

(1) 論文要旨の様式については、「様式1. 論文要旨様式」に従う。

(2) 本文の字数は、1,600字程度とする。

※「7. 博士学位論文作成マニュアル」の4)(2)要旨（和文：400字以内，英文：200～250語）とは、別に作成するものです。

2) 学位論文

(1) A4版（縦置き，横書き）に記し，A4版のフラットファイル（縦型，左横綴じ）に綴じる。

(2) 学位論文表紙の論文題目は，日本語表記とともにその英語表記を付す（様式2. 学位論文・題目表紙様式）。

(3) ファイルの表紙には論文題目（日本語表記），研究科名，分野，氏名を記し，背表紙には論文題目（日本語表記）と氏名を記す（様式3. フラットファイル表紙・背表紙様式）。

(4) 論文の体裁は，「8. 博士学位論文作成マニュアル」に従う。

7. 博士学位論文作成マニュアル

北海道医療大学大学院リハビリテーション科学研究科における学位論文作成に関する手引きとして、以下に要点を示す。

1) 用紙設定

用紙サイズはA4版（幅210mm，高さ297mm）とする。

2) 本文の設定

(1) 縦置き横書き。

(2) 40字×30行（1200字）。

(3) 文字フォント 日本語（MS明朝），英数字（Times）標準，10.5ポイント。
数字，アルファベットは半角。

(4) 余白 上下左右30mm。

3) 製本の形態

(1) 左綴じ・片面印刷。

(2) 表紙は指定の様式を使用する。

(3) フラットファイルに綴じる。

(4) 保存公開のための製本については，別途統一した仕様とする。

4) 論文の構成

(1) 題目表紙（指定様式）

(2) 要旨（和文：400字以内および英文：200～250語）

英文の要旨は，英文校閲を受けた証明書を添付する。

(3) キーワード（5つまで）

(4) 目次（目次，表目次，図目次，付録目次）

(5) 略語

(6) 本文

序論（序，緒言，はじめになど），方法，結果，考察，結論（結語，結び，おわりになど）が明らかになるように書く。

(7) 謝辞

唯一個人的な内容を記入することが出来る箇所である。指導教員や仲間，家族などに対する感謝の意などを記す。

(8) 引用文献

①引用・転載について

論文作成にあたっては，著作権についての配慮を行う。論文中に他の著作物からの引用を行うときには，その出典を明記する。また，引用の範囲を超えた「転載」には，著作権者やその著作物の出版社の許諾が必要である。論文が掲載されるために必要となる「転載」についての手続きは，筆者が責任を持つ。

②文献の記載様式

文献は，本文中での引用順に記載し，通し番号をふる。本文中の引用箇所には上付き数字で文献番号（¹，²，¹⁻³）を記す。文献の省略名は原則としてIndex Medicus に従い，引用文献の全著者名を記載する。和文誌の引用については，略語は使用しない。

(9) 図・表

- ①図・写真は、鮮明でそのまま製版できるものを準備する。カラー印刷を希望する場合は、各自の責任を持って印刷する。
- ②図・表は、それぞれをA4版1枚に印刷する。
- ③図・表のすべてに表題を記し（表は上に、図は下に）、適切な説明をつける。

(10) 付録

- ①appendixとして、付記する資料を巻末に整理する。
- ②本文と同様の要領でフッターを作成する。目次にはページ番号をつけずに付録の最初の頁より1を付し、付録の最後のページを最終とする。

5) 本文中の文献引用

本文中に文献を引用する場合は、以下のように示す。

示し方・例示

●雑誌

論文全著者名（発行西暦）. 論文タイトル. 雑誌名, 巻(号)数, 頁-頁.

和文献

例) 秋庭保夫, 石田暉, 村上恵一, 相沢茂, 生腰喬二 (1994). 上部脊髄損傷患者の消化管合併症に対する消化管機能検査と内視鏡検査による検討. リハビリテーション医学, 31(3), 178-183.

欧文献

- ・ 人名は、姓, 名, ミドルネームの順に記載する。姓の後に半角スペースを取り、名とミドルネームはイニシャルにし、各々半角スペースをあける。
- ・ 論文タイトルとサブタイトルは、最初の文字のみ大文字にする。

例) Kreutzer J S, Marwitz J H, Seel R, Serio D (1996). Validation of a neurobehavioral functioning inventory for adults with traumatic brain injury. Arch Phys Med Rehabil, 77(3), 116-124.

●書籍

書籍著者名または編集者（発行西暦）. 書籍タイトル. 出版地：出版社, 引用頁.

和文献

例) 中村隆一, 斉藤宏 (1987). 基礎運動学 第3版. 東京：医歯薬出, 85-102.

欧文献

例) Downey J A, Myers S J, Gonzalez E G (1994). The physiological basis of rehabilitation medicine. 2nd Ed, Boston: Butterworth-Heinemann, 12-35.

●書籍の章（一部）

章担当著者名（発行西暦）. 章のタイトル. 編集者名(編), 書籍のタイトル (章の該当頁). 出版地：出版社.

和文献

例) 米倉豊子 (1978). 内科的疾患に対する作業療法. 原武郎, 鈴木明子 (編), 作業療法各論 (393-406). 東京：医歯薬出版.

欧文献

- ・ 欧文の場合は，編集者の前に *In* (イタリック体) を書く。
- ・ 編集者名の後に (Ed.) をつけ，複数の編集者がいる場合には (Eds.) とする。

例) Liu M, Ishigami S (1996). Toward future research. *In* Chino N, Melvin J L (Eds.), *Functional evaluation of stroke patients* (125-142). Tokyo: Springer Verlag.

● 翻訳書

原著者名 (原著発行西暦). 原著タイトル. 原著出版地: 原著出版社. [翻訳者名. 翻訳書タイトル. 翻訳出版地: 翻訳出版社, (翻訳発行西暦), 引用頁.]

例) Andreasen N C (1984). *The broken brain; The biological revolution in psychiatry*. Tokyo: Harper & Row. [岡崎祐士, 安西信雄, 斎藤治, 福田正人訳. 故障した脳 脳から心の病をみる. 東京: 紀伊国屋書店, (1986), 15-27.]

● 電子資料 (インターネットからの引用)

作者名 (発行西暦). 著作物のタイトル, [ソースから検索した年月日], <アドレス>

- ・ 発行西暦は，引用する資料や論文等が作成された年 (月日) が明示されている場合に記載する。
- ・ Web ページは削除されることがあるので，資料は印字して保存しておくこと。

例) 内閣府自殺対策推進室 (2013). 警察庁の自殺統計に基づく自殺者数の推移等. [March 4, 2013], < <http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/toukei/pdf/saishin.pdf>. >

6) 文章表現

- (1) 現代かなづかいを用い，日本語は全角文字，英語は半角文字と半角スペースを用いる。数字は算用数字 (半角) を用いる。数量は国際単位系 (SI 単位) 記号を用いる (例; m, cm, mm, ml, kg, cm² など)。
- (2) 外国人の人名には原語を用いる。
- (3) 原則として日本語の学術用語は，「日本医学会医学用語辞典 (日本医学会)」「リハビリテーション医学用語集 (日本リハビリテーション医学会)」に，英語は *Index Medicus* に従う。
- (4) 句読点は「，」「。」を用いる。

7) 見出しとフッター

- (1) 見出しは，I - 1 - 1) - (1) の順に細分化させる。
- (2) フッターは，下中央にページ番号を記す。目次にはページ番号をつけず，本文の最初の頁より 1 を付し，文献の最後のページを最終とする。

様式1. 論文要旨様式

要旨本文の文字数は、1,600字程度とする。

20XX年度 リハビリテーション科学研究科博士課程学位論文要旨
(中央揃え, MS ゴシック, ボールド, 12ポイント)

(中央揃え, MS 明朝, 10.5ポイント)

学位論文題名

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ~○○○○○○○○○○○○○○○○○○~

○○○○○○分野

学籍番号:○○○○○○ 氏名:○○○○ (指導教員:○○○○教授)

(以下, 横50字×縦44行, MS 明朝, 10ポイント)

【序論】

○○○.

【目的】

○○○.

【方法】

○○○.

【結果】

○○○.

【考察】

○○○.

【結論】

○○○.

<備考>

※用紙はA4判の上質紙とする。

※余白は上下15mm, 左右15mmとする。

上記を見本とし, 大幅に逸脱することがないように作成すること。

様式2. 学位論文・題目表紙様式

論文題目（日本語表記，中央揃え，MS 明朝，14 ポイント）
○○○・・・・・・・・・・・・・・・・○○○

論文題目（英語表記，中央揃え，Times，12 ポイント）
○○○・・・・・・・・・・・・・・・・○○○

（中央揃え，MS 明朝，12 ポイント）
20XX 年度
北海道医療大学大学院リハビリテーション科学研究科
リハビリテーション科学専攻
○○分野 氏名○○○○

<備考>

※用紙は A4 判の上質紙とする。

※余白は上下 70 mm，左右 30 mmとする。

上記を見本とし，大幅に逸脱することがないように作成すること。

様式3. フラットファイル表紙・背表紙様式

下記の要領で表紙・上部，表紙・下部，背表紙を作成しフラットファイルに貼付ける。

- ・フラットファイル表紙・上部 (横 136 mm, 縦 38 mm)

(日本語表記, 中央揃え, MS 明朝, 14 ポイント) 論文題目 ○○○ ○○○
--

- ・フラットファイル表紙・下部 (横 136 mm, 縦 38 mm)

(中央揃え, MS 明朝, 12 ポイント) 20XX 年度 北海道医療大学大学院リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 ○○分野 氏名○○○○

- ・フラットファイル・背表紙 (横 10 mm, 縦 230 mm : MS 明朝, 12 ポイント)

論文題目
X X X X X の 考 察
氏名
医療大吉

8. 博士学位論文の審査基準・評価方法

審査基準

- 1) 研究背景の理解
 - ・ 先行研究や関連研究に関する情報収集が充分行われている。
 - ・ 先行研究や関連研究の理解が適切に行われている。
 - ・ 明確な問題意識・問題設定が提示されている。
- 2) 研究目的・課題の明確性およびオリジナリティ
 - ・ 研究の目的および取り組むべき課題が明確に提示されている。
 - ・ 設定した課題が、当該研究領域において十分な独創性（オリジナリティ）、新規性および社会的有用性を有している。
- 3) 適切な研究方法の設定
 - ・ 研究課題に対して適切な研究方法（調査方法、実験方法、論証方法、データの解析など）が採用・実行されている。
 - ・ 収集した資料やデータの取り扱いが適切である。
 - ・ 研究対象について十分な倫理的配慮がなされている。
- 4) 適切な研究結果の提示
 - ・ 研究方法に基づいた分析結果が適切に提示されている。
 - ・ 図表の構成が適切である。
- 5) 事実（研究結果）に基づいた考察
 - ・ 分析結果の解釈が妥当である。
 - ・ 事実（研究結果）に基づき、適切な考察がなされている。
 - ・ 過大な推論を展開していない。
- 6) 一貫した論理展開の提示
 - ・ 研究課題に対して一貫した論理展開がなされ、明確な結論が導出されている。
- 7) 体裁
 - ・ 論文が規定の様式に沿っている。
 - ・ 先行研究や関連研究の引用が適切になされている。
 - ・ 注記等が適切に提示されている。

評価方法

- 1) 上記の審査基準を基に、博士論文を以下の4段階で評価する。
 - A：優れた論文である。
 - B：おおむね良好な論文である。
 - C：不十分な点はあるが、博士論文として認定しうる。
 - D：博士論文としての水準に到達していない。
- 2) 主査（1名）、副査（3名以上）が別々に評価を行い、その結果を主査に提出する。
- 3) 主査はこれを参考に「学位論文審査ならびに最終試験結果報告書」を作成する。

9. 学位審査終了後の提出物

1) 学位論文要旨

博士の学位を授与された日から3か月以内に、学位論文要旨をPDFファイル（テキストデータ含む）として、リハビリテーション科学課に提出してください。提出されたデータをもとに「博士論文の内容の要旨」および「論文審査の結果の要旨」が作成され、インターネット（北海道医療大学学術リポジトリ）を通じて広く公表されます。

2) 博士学位論文（全文）

博士の学位を授与された日から1年以内に、博士学位論文（全文）をPDFファイル（テキストデータ含む）でリハビリテーション科学課に提出してください。

博士の学位を授与された者は、「博士学位論文（全文）」を博士の学位を授与された日から1年以内にインターネット（北海道医療大学学術リポジトリ）を通じて広く公表しなければなりません（学位授与の前に公表されている場合は、この限りではありません）。

ただし、やむを得ない事由があり、博士学位論文全文を公表できない場合は、大学の承認を受け、論文全文に代えて内容の要約を公表することができます。この場合、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供することがありますので、製本した博士学位論文（全文）を1部提出してください。なお、やむを得ない事由が消滅した場合は、博士学位論文全文を公表しなければなりません。

※北海道医療大学学術リポジトリについては、V. その他資料「博士学位論文の取り扱いについて」を参照のこと。